JTF JOURNAL
#277
May/Jun 2015
翻訳の未来を考える

特集

翻訳の未来を語ろう

Chizai Corporation

言葉をインフラに、世界の知財をつなぐ
私たちは知財のプロフェッショナルです

知的財産の世界で人材は常に求められています。
フリーランス特許翻訳者常時募集中!

※応募方法など詳細は www.chizai.jp へアクセスください。

業務内容

- ◉ **特許翻訳**【英語・中国語・韓国語・欧州アジア各国言語】
- ◉ 知財アカデミー®【教育・情報提供】
- ◉ 知財ヒューマンリソーセズ®【人材派遣・人材紹介】
- ◉ 国内／海外出願用図面作成【特許・意匠】
- ◉ 海外出願事務代行サービス、海外特許調査
- ◉ 中国知財裁判情報提供

海外拠点

✷ **中国現地法人**
知財信息諮詢（上海）有限公司
www.chizai.com.cn

✷ **共同出資会社**
雅訳諮詢（大連）有限公司
www.asia-translate.com

株式会社 知財コーポレーション（創立1976年）
〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-10-1 日土地西新宿ビル７階
TEL: (03)5909-1181（代） FAX: (03)5909-1183
www.chizai.jp **E-mail:** info@chizai.jp ISO9001:2008認証取得

来る2016年、
創立40周年を迎えます

Since 1976 Chizai Corporation

翻訳の未来を考える

JTF JOURNAL

表紙撮影：世良武史

一般社団法人 日本翻訳連盟 機関誌

JTFJOURNAL
日本翻訳ジャーナル
2015 年 5 月／6 月号 #277
発行人●東 郁男（会長）
編集人●河野 弘毅

May/Jun 2015 #277

contents

特集：翻訳の未来を語ろう

4 イントロダクション

5 武器と言語 ● 河野 弘毅

6 2061 年翻訳の旅 ● 高橋 聡

6 人間翻訳者 ● 矢能 千秋

7 翻訳を愛せる仕事へ ● 齊藤 貴昭

8 世界を見る窓を磨く ● 遠田 和子

イベント報告

10 2014 年度 第 2 回 JTF 翻訳支援ツール説明会報告
翻訳支援ツール「Memsource」、「Transit NXT」の紹介 ● 加藤 じゅんこ／目次 由美子

12 2014 年度 第 4 回 JTF 関西セミナー報告
すぐ試そう! あなたの時間がきっと増える。
翻訳者のためのパソコン・マイクロソフトオフィス便利技 20 選♪ ● 新田 順也

14 2014 年度 第 6 回 JTF 翻訳セミナー報告
英文契約書：ここで差がつくワンポイント翻訳レッスン ● 野口 幸雄

翻訳会社の声

16 真のコミュニケーションで世界を幸せにする ● 松元 洋一

連載コラム

18 勉強会が教えてくれること ● 中澤 甘菜

20 実務から書籍へ、そして翻訳会社 ● 山本 知子

22 No AHK, No Life ● 松本 明彦

24 医師と翻訳者の狭間で ―論文英訳に思いを馳せて― ● 小林 はる美

一般社団法人 日本翻訳連盟
〒 104-0031
東京都中央区京橋 3-9-2 宝国ビル 7F
TEL. 03-6228-6607　FAX. 03-6228-6604
info@jtf.jp　http://www.jtf.jp/

無断転用禁止 Copyright©2015 Japan Translation Federation

特集

翻訳の未来を語ろう

JTF ジャーナル（日本翻訳ジャーナル）は2011年から「翻訳の未来を考える」というコンセプトを掲げています。この雑誌の発行元である一般社団法人日本翻訳連盟は法人（翻訳会社）と個人（翻訳者）の両方が会員として加盟する組織構成の業界団体ですが、「翻訳の未来」くだいて言えば「将来への期待と不安」というテーマであれば、立場の異なる翻訳会社の方と翻訳者の方のいずれにも関心をもって読んでいただけるであろうと考えたためです。このコンセプトを掲げて五年目となる今年度最初の発行となる今月号では、この雑誌を制作しているジャーナル編集委員の皆さんにそれぞれの言葉で「翻訳の未来」を語ってもらいました。ここを出発点として JTF ジャーナルは、翻訳会社の方にも翻訳者の方にもより一層の興味を持って読んでいただける雑誌へと進化していきたいと思います。今年度も JTF ジャーナルをよろしくお願いします。（河野）

Editorial board members
JTF JOURNAL 編集委員会

撮影：世良武史

武器と言語

河野 弘毅

私事で恐縮ですが大学時代は工学部の航空学科というところにいました。宮﨑駿監督の映画『風立ちぬ』の舞台になったその学科では四年生の春に先輩の職場を訪問する見学旅行が慣例となっていましたが、見学先の重工メーカーで航空宇宙産業が防衛産業と不可分であるという現実を突きつけられた私は、予想以上に深い衝撃を受けました。工学部とは私の理解を一言でいえば「より優れたモノをより早くより安く作る方法を学ぶ」ところですが、自分の作ったものが何のために使われるのか、その目的を論じる機会はめったにありません。自分にとって兵器開発が人類の一般福祉に貢献するとはどうしても納得できず、かといって自身がその意味や価値を納得できない仕事には取り組めないという自覚もあったので、進路に迷って暗い気持になりました。

結局、数年の電気メーカー勤務を経た後に転職して今まで四半世紀を翻訳業界で働いていますが、自分がこれまでの人生で出会った「武器」と「言語」という二つの表象には共通点と相違点があると考えています。両者に共通するのは、それが人と人の間に介在するものであるという点です。武器を行使するとき人は相手を対話の対象ではなく力で対抗すべき敵とみなしています。一方、言語を行使するとき人は相手となんらかのコミュニケーションを図ろうとしています。そのときにもしも相手の母語と自分の母語が異なれば、「翻訳」という手段により言語間の橋渡しを試みます。こう考えると、武器と言語の選択の違いは相手に対する関係性の違いに基づくと言えるでしょう。武器は相手を力で抑えこむための手段であり、言語は相手と対話してなんらかの共通了解に到達することを試みるための手段です。

工学という方法では目的を棚上げして技術を発展させていくことができますが、武器の技術を発展させていく先に人類の未来はないというのが私個人の直観です。言語に関する工学的技術は現在、技術革新前夜の趣をみせています。機械翻訳の支援を受けることで翻訳のコストが下がれば、言語による関係構築が今よりも選びやすい選択肢になると私は期待しています。もちろん、言葉が通じれば争いがなくなるなどという簡単な話ではありませんが、言葉による対話を通じた相互理解をもとに構築される人間関係や国家関係をより寛容性の高い相互承認へと前進させていく方向にしか人類の未来はない、というのが私の意見です。翻訳の未来が失われるときとはすなわち言語による相互理解の努力が放棄されるときであり、それは最悪の場合には武器による相互破壊の誘惑に人類が負けるときです。歴史の均衡が破滅に傾くのを少しでも防ぐために、翻訳の未来をつくる営みに微力ながら加勢していきたいと願っています。

編集長
河野 弘毅
Kawano Hiroki

2061年翻訳の旅

高橋 聡

私が初めて翻訳で稼ぎを得たとき使ったのは紙とペンだった。仕上がりの3倍以上も原稿用紙を無駄にするという時代だった。

198x 年、業務用大型ワープロをリースで使い始めた。ワープロの登場こそ、産業翻訳者にとっての産業革命だった。カット、コピー、ペースト。これはもう翻訳者のために存在する機械だと確信した。紙の無駄を気にすることなく、いくらでも推敲ができるのだから。

199x 年、本格的に PC とワープロソフトに移行。パソコン通信、そしてまもなく登場したインターネットが、翻訳者にとって第二次産業革命となり、「調べもの」の効率と精度が飛躍的に向上した。21世紀に入ると電子辞書が本格的に登場、これが第三次産業革命となる。

こうして、かつて「紙とペン、紙の辞書、図書館」で営まれていた仕事は、すべて PC 上で済むようになった。もちろん私も、1日のほとんどを PC の前で過ごしていた。

2020年。東京オリンピックが開催されるまでに、産業翻訳の一部は完全に機械翻訳に移行した。そこまで技術が進歩したわけではなく、読み手のほうが機械翻訳のレベルに慣れきってしまったのだ。とは言え、そのレベルの翻訳需要は多くても業界の4割どまりで、日本語でも欧米言語でもまだまだ人間翻訳者は必要とされた。

2030年。15年以上も頓挫していた日本語の音声入力が、ついに完成形になった。ほぼ人間並みの歌唱力を備えるようになっていたボーカロイド技術の転用だったという。慢性の腱鞘炎が悪化していた私にも、これは天の恵みだった。視線や瞬きによる制御もほぼ実用段階に入り、キーボードという入力装置は一部のマニア向けを除きほとんど姿を消した。

2038年。脳からの信号による直接制御が完成し、思考をすぐ言葉にできる時代になったが、意外にも翻訳や執筆には向かなかった。脳波にはノイズが多すぎるのだ。視線制御と音声入力という組み合わせのほうが大きくリードし、翻訳作業はヘッドセットとタブレットというのが普通の姿になった。

そして2061年。ニューロコンピューターと脳波を介した直接伝達で言語の壁は限りなく低くなり、日常的には翻訳というプロセスがかなり不要になっている。それでも、翻訳という職業はなくなっていない。理由は簡単。人間にとっての文字情報とは、単なる通信手段ではないからだ。

文字言語に込められた願いや思いを、別の言語で再現することは、いまだに機械にはできない。人が人である限り、翻訳はなくならないようだ。

編集委員
高橋 聡
Takahashi Akira

P18「フリースタイル、翻訳ライフ」
コラムオーナー

人間翻訳者

矢能 千秋

人間翻訳者。私のハンドル名である。紙の印刷に堪える日本語、英語を目指している。志は高く。フリーランス翻訳者歴15年、一児の母である。在宅勤務の翻訳者なのだから、仕事と家庭を両立させたい、と思ってはいるが、実際にはかなり仕事優先で両立どころではない。日本翻訳ジャーナルの編集委員三年生である。先輩編集委員には、「もっと視野を広く」といわれるが、日本在住の在宅ママ翻訳者のリアルなケース1でもいいのではないだろうか、とも考えている。仕事と家庭の両立。働く母親の永遠の課題だが、在宅翻訳者なのだから両立させてみたい、という奮闘記に近い。人間翻訳者の仕事部屋で紹介する方々は、それぞれがサンプルケース。「仕事、人生をどのように両立されているのか、生きざまを拝見したい」と、毎回お話を伺っている。編集委員を引き受けさせてもらったとき、「私より先輩はたくさんいるのに」、と躊躇した。でも思いきってやらせてもらうことにしたのは、「子育て中のママ翻訳者の励みになるかも？　それに、子育て以外でも介護など仕事と両立が必要なことはあるから、みんなに役立つことをシェアできるかもしれない」、と思ったからである。他の編集委員とは異なる視点から切り込みたい。自分の翻訳者としてのキャリアを考えたとき、在宅ではあるが子育てをしながら男性と同じ働き方は難しい、と感じた。先輩の話を聞いていたとき、「ロールモデルを求めているからダメなんじゃないの？」と言われたことがあった。確かに。SNS の発達で隣の青い芝生がよくみえるようになった。なら青い芝生をみせてもらおう。ど

翻訳を愛せる仕事へ

齊藤 貴昭

うやって青くなったのか？　近づいてみてみたら、緑かもしれない。紙の印刷に堪える日本語、英語を書けるようになりたい。機械翻訳に負けない人間翻訳者。大丈夫。人間翻訳者は、機械には負けない。今年度も人間翻訳者の話を伺うのが楽しみである。人生が豊かになると、訳文も豊かになると信じている。すべては訳文の肥やしになる。大丈夫。みている人は、きっとみている。私がたどってきた15年が必ず参考になるかどうかは分からない。登場いただく方のケースも同様。でもきっと参考になると信じている。人間翻訳者の仕事部屋、今年度も皆さんと一緒に覗いてみたい。「翻訳の未来を語ろう」という特集タイトルだが、過去、現在をみることで自ずと未来はみえてくる。意思のあるところに、道あり。一緒に未来を築いていったらいいのではないだろうか。そもそも、なぜ翻訳者になったのか？　初心はどんなだったのだろう。自分はなぜ翻訳者になり、初心はなんだっただろうか？　翻訳の未来、一緒に考えてみようではないか。

編集委員
矢能 千秋
Yano Chiaki

P20「人間翻訳者の仕事部屋」
コラムオーナー

翻訳を翻訳会社の中から見るようになって以来、翻訳業界の将来を考えると「キーとなるのは翻訳会社だ」という想いを強くしています。その理由は、翻訳会社がもっとも多くの顧客と接触する機会を持つからです。

翻訳価値の一般認識の是正と創造

我々が取り扱う商品「翻訳」の価値を決めるのはお客様です。しかし、翻訳物の使用者である最終読者が翻訳の購買者（顧客）であるケースは、比較的少ないのが現状ではないでしょうか。つまり、最終読者が必要とする翻訳とは何かを意識せずに発注する顧客が、相当数市場には存在する事になります。「翻訳は言葉の置換」「機械でも翻訳できるもの」「故にコストは掛からないはず」といった誤解を、「翻訳を熟知したプロである翻訳会社」が正しい理解と認識のもとに、顧客へ適切なアドバイスやコンサルティングをし、あるべき翻訳価値の理解に繋がるように誘導する立場にあると思います。

翻訳に対する一般的認識が垣間見える最も分かり易い例が、機械翻訳システムにより多言語化されているホームページです。導入側はおそらく翻訳の素人で、自らが情報正確性の担保を放棄したメッセージを出すようなシステムにも関わらず導入しており、また、翻訳会社は自らの専門性を放棄して、需要側のニーズに迎合している例だと思います。

良き翻訳会社を育てるのは翻訳者

市場にある無数の翻訳会社を見て、翻訳の理想的な未来へ導いてくれる企業か否かを評価できるのは翻訳者だと思います。翻訳という仕事を通して、その企業の姿勢や考え方、哲学というものが透けて見えてくるものです。相互に助言をして高め合うという姿勢が大切だと思います。その上で、相応しくないものは排除していくという思い切りも必要となるでしょう。

だからこそ、業界を牽引できる強い業界団体が必要

そんな翻訳会社や翻訳者を含め、翻訳業界全体を啓蒙していくのは、法人会員を多く抱える日本翻訳連盟のような業界団体であり、その活動がとても重要になってきます。翻訳業界の明るい将来を考えたビジョンを示し、翻訳に携わる翻訳会社や翻訳者へ向けた指針やガイドラインを示して業界を牽引していく。そんな役割を果たしてくれることを期待してやみません。そして、この日本翻訳ジャーナルは、そういった業界への重要な情報発信インフラとして位置付けられることでしょう。

編集委員
齊藤 貴昭
Saito Takaaki

P22「翻訳横町の表通り」
コラムオーナー

世界を見る窓を磨く

遠田 和子

言葉は世界を見る窓です。人間はモノに名前を与えることで、そのモノを明確に認識できるようになります。異なる言語間では窓の造作が違うので、モノの見え方は微妙に異なります。そんな違いの話から始めましょう。

“It looks like a big fly.”アメリカから日本を訪れた小学生が、セミを人生で初めて見たときの第一声です。“Eh? A big fly? No, this bug is a cicada.”と答えたものの、よく見ると確かにセミはハエに形が似ています。男の子には、彼が知らなかった単語 cicada を教えました。「大きなハエ」に見えた昆虫には cicada という名前がある。それを知ることで、男の子はハエとセミの違いをくっきりと認識できるようになりました。そして cicada という言葉とともに、セミ取りの楽しさ、日本の暑い夏の一日を身体に取り込みました。

その後、海岸に行ったときのこと。「日本では、seaweed を食べるんだよ」と言うと、男の子は“Yuck!”（オエッ！）と反応しました。海藻を食べる習慣のない英語圏では、日本人には違いが歴然なわかめ、ひじき、もずくなど、全て十把一絡げの seaweed でしかありません。海の雑草です。しかし男の子はみそ汁に入ったわかめを平気で食べたので、日本語 wakame を教えました。この子は wakame という言葉とともに、その味と食感を身体に取り込みました。

残念ながら、この小学生のように異文化の中で言葉を覚える体験はなかなかできません。そこで異言語の間を橋渡しする翻訳が必要になります。私の尊敬する翻訳者が、京都老舗旅館の懐石料理メニューを英訳したとき、具材にさまざまの海藻が含まれていたそうです。単純に訳せば seaweed です。もしメニューに seaweed と記されていたら、外国人のお客さんはどう感じるでしょう？おそらく小学生の男の子と同じように、心の中で“yuck!”と呟くことでしょう。高級料理に weed（雑草）が入っているなんてとんでもない。そこで翻訳者は、「海藻」の訳に sea lettuce と sea vegetable を適宜使いました。seaweed という言葉の窓から見えるのは「食えない雑草」だけれど、sea lettuce や sea vegetable という言葉の窓から見えるのは「野菜」。れっきとした食材です。

このように翻訳者は、単語を一つ一つ慎重に選びます。異なる言語という窓を通したとき、元の言語の窓と同じ景色が見えるよう心を砕きます。

翻訳の未来は、機械にはマネのできない感性と職人技にある。これが私の信条です。「言葉の職人」（wordsmith）として、世界を見る窓を正しく、歪みなく、一点の曇りもなく磨き上げる。そんな窓の向こう側に翻訳の未来が見えます。

WordSmyth Café 店主
編集委員
遠田 和子
Enda Kazuko

P24「WordSmyth Café」
コラムオーナー

サン・フレア アカデミー 未来の翻訳者が集う場所

「英語が好き」を仕事にしたい
わたしの夢を、ここでかなえる

通学科／通信科講座、ワンデーセミナーなど多彩なプログラムをご用意。
「翻訳実務検定TQE」を運営し、翻訳者の育成に力を入れています。

☎03-6675-3965
【受付時間 平日10:00～20:00 土曜日10:00～17:00】

詳しくはウェブサイトで
サン・フレア アカデミー　検索

SUNFLARE Academy サン・フレアアカデミー
〒160-0004 東京都新宿区四谷4-7 新宿ヒロセビル2階　E-mail：academy@sunflare.co.jp

2014年度 第2回 JTF翻訳支援ツール説明会報告

2014 年度 第 2 回 JTF 翻訳支援ツール説明会

日　時 ● 2015 年 2 月 24 日（火）14：00 ～ 16：30
開催場所 ● GMO スピード翻訳株式会社　大 1 会議室
テーマ ● 翻訳支援ツール「Memsource」、「Transit NXT」の紹介
プレゼンター ● 株式会社翻訳センター　業務推進部
加藤 じゅんこ *Kato Junko*
株式会社シュタール ジャパン　Transit スペシャリスト
目次 由美子 *Metsugi Yumiko*
報告者 ● 成田 崇宏（株式会社ホンヤク社）

SEMINAR

Tokyo 24 Feb. 2015

今回のセミナーでは、翻訳支援ツール「Memsource」と「Transit NXT」について、㈱翻訳センターの加藤じゅんこ氏と、㈱シュタール ジャパンの目次由美子氏より、機能紹介やデモを行っていただいた。

第1部 Memsource

（加藤 じゅんこ氏）

概要

加藤氏が Memsource と出会ったのは2012年のこと。チェコ生まれの同ツールが2011年に有償版をリリースしてから間もなくのことで、その頃まだ日本での知名度はほとんどなかった。導入当初は、不具合が発生したり、アバウトなマニュアルに困ったり、前触れ無く新機能が搭載されたり、ということがあった。しかしながら同時にそれらは、サポート対応の早さ、シンプルな操作性、開発スピードの速さといった Memsource の長所を示すものでもあった。特に、Memsource は開発に力をいれており、開発力が高いことが特徴の会社といえる。

また、翻訳会社としては、操作のしやすさと、翻訳者に無償でライセンスを提供できる点が魅力であった。現在では、Memsource のユーザー数は世界中で30,000名を超え、また、シトロエン社や TextMinded 社といった大企業を顧客に持っている。Memsource のエディションは、翻訳者および翻訳会社向けが5つ、企業向けが3つあり、有料版はすべて、30日間の試用ができる。

デモ

Memsource は、プロジェクトに関するすべてのデータをクラウド上で管理する。今回の説明会では、プロジェクトの立ち上げから翻訳物が仕上がるまでの一連の流れを、サンプルを用いて実際にデモしていただいた。

Memsource の UI はすっきりとしていて、画面回りは直感的な操作ができるような作りになっているが、使いやすさだけが追求されているわけではなく、プロジェクトマネージャーや翻訳者にとって役に立つさまざまな機能も搭載されている。その一部は以下の通り。

・ステータス管理とメール通知

プロジェクトはステータスで管理される。翻訳者が案件を確認したときと翻訳を完了したときにステータスを変更すると、その情報は自動でプロジェクトマネージャーにメールで通知される。また、翻訳の進行状況はプロジェクト管理画面上でパーセンテージで表示され、プロジェクトマネージャーは、ほぼリアルタイムで進捗を確認できる。

・解析機能

原文データを Memsource にインポートする際、インポート対象箇所（MS Word のコメント、Excel の非表示セル、PowerPoint のノートなど）をファイル形式ごとに指定できる。解析結果には、あらかじめ設定した課金率をボタン1つで反映させることができる。また、翻訳メモリの設定時に、メインではない参考

用のメモリにペナルティを課すことで、翻訳時の一致率に人為的に差を付けることも可能。

・QA チェック（品質保証）機能

数字、用語、タグといった文書内の要素に対して、プロジェクトごとに QA チェックの項目を詳細に設定することができる。

・Word バイリンガルファイルへの書き出し

対訳形式の Word ファイルの書き出しが可能で、Memsource を使える環境がなくてもチェックやプルーフなどを行える。作業後、Word ファイルを Memsource に取り込み・反映も可能。

・機械翻訳

10を超える機械翻訳エンジン／サービスに対応している。

（参考サイト：http://wiki.memsource.com/wiki/Machine_Translation）

第2部 Transit NXT

（目次 由美子氏）

概要

シュタール ジャパン社は、多言語での産業翻訳、DTP、技術情報マネジメント業務を展開している。スイス本社の STAR AG は昨年30周年を迎え、STAR グループは世界31カ国に40以上の拠点を持つ。ネイティブが翻訳を担当するという「翻訳現地主義」のもと STAR グループはこれまでに多くのグローバル企業に向けて多言語翻訳および最先端技術によるソリューションを提供してきた。その中で、自社開発の翻訳支援ツールである Transit は同社の主力製品であり、1996年の日本語対応版のリリース以来バージョンアップを続けてきた。2009年にリリースされた Transit NXT は、飛躍的に向上した機能性・効率性と優れた操作性を兼ね備えており、リリース後も約1年間隔で機能拡張のためのサービスパックを無償提供している。エディションは3種類あり、機能制限のない Professional 版のほかに、Freelance Pro 版と Workstation 版がある。今回のセミナーでは、今年リリースされたばかりのサービスパック8の新機能について、実際の画面を使って説明していただいた。

デモ

Transit における標準的な翻訳プロジェクトのフローは、プロジェクト作成（原文データの指定や原語・訳語の設定）、インポート（テキストおよびレイアウト情報の分離）、プリトランスレーション（メモリに100% 一致したセグメントを自動翻訳）、翻訳（メモリや辞書を活用した、あいまい一致ならびに新規セグメントの翻訳）、エクスポート（テキストおよびレイアウト情報の統合）で構成される。Transit の最大の特徴はコンテキストの重視であり、翻訳したランゲージペアを文単位で区切らないまま翻訳メモリとして使用でき、章や文書全体の文脈的情報を参照マテリアルとして蓄積できるため、文書の構造や文脈を考慮した訳し分けが可能となる。

今回のサービスパック8では、主に以下の機能が追加・強化された。

・エディター機能

従来の検索機能にカウント（検索したテキストが何回出現するか）、マーキング（色を付ける）といった機能が追加された。

・品質保証機能

フォーマットチェック（数字・マークアップなど）の設定をセットして保存できるため、特定のクライアント向けのセットを作ったり、プロジェクトマネージャーと翻訳者間でチェック項目を共有したりできるようになった。

・改訂履歴の追跡

セグメントごとに改訂の履歴が確認できるようになった。翻訳者、チェッカーがそれぞれどのように訳文を作成したかを見て、必要に応じて元に戻すことが可能。また、品質レポート機能（有償オプション）で履歴の一覧表示もできる。

・用語管理機能

用語集内での重複を回避するために、重複フィルタが設けられた。

・機械翻訳の対応

エディター MT（不特定ユーザー向けのオンライン機械翻訳サービス）とインポート MT（顧客専用の機械翻訳システム）の2種類を利用できる。

・対応ファイル形式の増加

Office 2013、InDesign CC 2014、FrameMaker 12に新たに対応。また、SDL Trados Studio のパッケージファイル（SDLPPX と SDLRPX）にも対応できるようになった。

・字幕翻訳機能

該当する字幕テキストが出現する箇所を動画で部分的に再生しながら翻訳できる。新たに WebVTT にも対応。

まとめ・感想

印象としては、Memsource は業界では若い翻訳支援ツールで、ツール初心者にも取り扱いやすく作られているのが大きな特徴であり、一方で Transit は20年以上の歴史があることからツールとしては円熟しており、専門的で複雑なプロジェクトにも幅広く対応できることが強みであると感じられた。今後、両ツールともに、さらに機能面・操作面において進化すると思われるため、新しい情報を積極的に入手したい。

加藤 じゅんこ
Kato Junko

PROFILE

（株）翻訳センター 業務推進部にて、翻訳支援ツールのサポート業務・社内ツール開発業務にあたる。Memsourceについては導入当初より、社内外教育・サポート業務・ツールの不具合検証を行う。Memsourceに関する知識については日本で3本の指に入ると自認。
http://www.honyakuctr.com/

目次 由美子
Metsugi Yumiko

PROFILE

サンフランシスコ州立大学卒。1998年にシュタール ジャパンに入社し、国産自動車メーカーの取扱説明書の欧州言語版作成、整備関連テキストの16言語翻訳などの多言語翻訳プロジェクトに取り組む。自社開発の翻訳支援ツールTransitの社内外ユーザーサポート業務も担当。2002年にはSTAR Paris（フランス）に1年間滞在し、現地担当者と共に多言語翻訳プロジェクトを推進。STAR AG本社（スイス）へも赴き、シュタール製品の理解を深めるだけでなく、各オフィスの担当者とも交流を温める。現在は「Transitスペシャリスト」として、最新版Transit NXTを国内で幅広く紹介している。
http://www.starjapan.co.jp/

2014年度 第4回 JTF関西セミナー報告

2014 年度 第 4 回 JTF 関西セミナー

日　時 ● 2015 年 3 月 6 日（金）14：00 ～ 17：00

開催場所 ● 大阪大学中之島センター

テーマ ● すぐ試そう! あなたの時間がきっと増える。
翻訳者のためのパソコン･マイクロソフトオフィス便利技20選♪

講　師 ● エヌ・アイ・ティー株式会社 代表取締役／ブログ「みんなのワードマクロ」管理人
新田 順也
Nitta Junya

報告者 ● 盛谷 明美（フリーランス医薬翻訳者）

SEMINAR

Osaka
6
Mar.
2015

進行係の近藤美樹氏から紹介を受け、新田氏がご登壇。

このセミナーは定員の100名が満席になる盛況で、参加者はフリーランス翻訳者が大多数、翻訳会社社員、学習者その他が各数名程度であった。

当日は Windows 7以上、Office 2010以上を中心に、初期設定と、日々の作業で繰り返し使えるワザの2部構成で進められた。繰り返し作業の“仕組み化”には、Word 機能について知り、繰り返しの対象を特定し、実行する必要、ということを念頭に講義が始まった。

第1部　初期設定方法

一度設定しておけば、作業しやすいPC 環境を作ることができる。たとえば拡張子の表示方法を変え、ファイルの種類が特定しやすくしたり、Word の“おせっかい機能”（箇条書き番号の自動入力等）を停止させれば、入力通りの結果が得られる。おせっかい機能は57項目もあり、42項目がデフォルトでオンになっているので、これらを解除すればイライラから解放される。おせっかい機能は使い方によっては有り難いものもあるが、この設定はやっておきたいところだ。

よく使う編集操作（例：選択範囲の文字列を赤字にする）にショートカットキー（例：[Alt] + [R]）を割り当てれば、マウス操作を大幅に減らすことができる。編集操作のコマンドを知る必要があるが、選択画面での類推やインターネット検索ができるので大丈夫だ。また、テキスト形式での貼り付け、コメント削除などにもショートカットキーを割り当てておくと便利である。

日本語入力システム（IME、ATOK）を速記ツールに活用すれば、単語や文章を素早く入力できるようになる。頻繁に使う表現を登録すれば、日々のメールが簡単に作成できるようになる（例：おへｎ→お返事をありがとうございます）。誤変換を防ぐための工夫等、経験に基づいたアドバイスがあり、参加者は熱心に聞いていた。辞書ファイルを Dropbox などのクラウドに保存すれば、パソコン間で同じ辞書を使うこともできるので、パソコン買い替えの度に作り直すという無駄も省け、導入すると非常に良いと思われた。初期設定だけでも、作業効率がぐんとアップしそうな内容であった。

第2部　操作編 もっと便利に使いこなす

ファイル名を変更するショートカットキー [F2] を使えば、一発でファイル名を編集できる。[F2] は編集キーとして他の場面でも使え（例：Excel のセルの編集）、[ESC] で解除できるので、覚えておきたいキーだ。

Windows エクスプローラーでフォルダ間を移動するショートカットキーは、[Alt] + [←][→][↑] である（ウェブサイト内でも応用可）。これでファイルを探す時のマウスクリック操作が大幅に減る。さらにアプリ間やウェブサイト間の移動、タブを閉じる、サイト閲覧履歴を

開く等のショートカットキーもご紹介頂いた。こうしたショートカットキーは各Office 製品で応用でき、簡単なのでお勧めである。

タスクバーのカスタマイズ方法として、「ピン留め」技法の紹介があった。スタートボタンからではなくタスクバーからアプリを一発で立ち上げることができる。有効スペースを拡張するためのアドバイスもあった。

クイックアクセスツールバー（QAT）のカスタマイズ法の説明があった。QATとは画面上の「リボン」の左上に小さく乗っかっているバーのことだ。ここによく使うボタンを登録しておけば、編集操作のためのクリック回数が1回で済む。登録も極めて簡単で、ボタンを右クリックすればよい。QAT を使えば大きな「リボン」が不要になるので、有効スペースが広がるというプラスの Side effect がある。Office 製品で共通して使える。

最近使ったファイルをカスタマイズする場合にも、「ピン留め」技法が応用できる。これで、日常よく使うファイルやフォルダを常時表示できるので、探す手間が省ける。Office 製品に共通使用できる。Office 2013からはピン留めをパソコン間で同期可能とのことだ。

1つのファイルを別ウィンドウで開く方法は、同じファイル内での文字列をコピー・貼り付けする時に便利である。これは翻訳者にも校正者にも使えるグッドな技だ。

数字とアルファベットを全て半角にしたり色付けしたりすることも、［検索と置換］ダイアログボックスを応用すれば思いのままである。編集者やチェッカーに有効な方法だ。

一度聞いておけば、日々の仕事の大幅な効率化に役立つはずである。参加者の中には、すでにこうした設定や操作を知った上でセミナーに出席している方もおられ、その学習意欲の高さがうかがわれた。

配布資料以外にも、単語単位の選択、単語単位のカーソル移動、フォントの大きさを変える、上付き・下付き、パワポで位置調整…などなど様々なショートカットキーを参加者に教えて頂いた。もっと色々技を知りたいと思った参加者も多かったと思うが、時間切れとなった。参加者からは、数字と括弧を一気に検索できるのか、ワードマクロの探し方、カスタマイズの引っ越し法、といった様々な質問が出た。逆に参加者からアドバイスが出る場面もあった。Word の技は奥深いようだ。最後に、48時間以内に復習すること、ゲーム感覚で体を使って覚えることの大切さを新田氏自身の体験を交えて語られた。

最後に、JTF 理事の理事石岡映子氏より挨拶があり、単価を上げることが厳しい状況で、翻訳者は生産性を上げることを考えるべきだ、1日30分の作業の効率化で年収に差が出る、エージェントもアプリが使える人、IT スキルがある人を求めているというお話があった。クライアントの複雑な文書に迅速に対応し、本来の仕事に力を注げるよう、PC スキルをしっかり身につけ、効率化を目指していきたいところである。

本セミナーで新田氏はキーボード操作が見えるソフトを使用され、目でわかる画期的な説明法であった。ユーモアにあふれる解説を聞きながら、会場一杯の参加者はスクリーンに映しだされるキー操作を熱心に見つめていた。すぐに役立つ多くの技を短時間で効率よく教えて頂き、まさに冒頭で言われた「職場の誰かに自慢するネタ」ができ、有意義なセミナーであった。

新田 順也
Nitta Junya

PROFILE

エヌ・アイ・ティー株式会社 代表取締役／ブログ「みんなのワードマクロ」管理人
大阪大学工学部環境工学科卒。カリフォルニア大学バークレー校工学部土木環境工学科修士。エンジニアリング会社と特許事務所を経て、2011年春に特許翻訳者・プログラマーとして独立。ブログ「みんなのワードマクロ」で400以上のWordマクロを公開。翻訳者、翻訳会社、社内翻訳部門向けにマクロ活用のセミナーやコンサルティングを実施。日経パソコンのPC Onlineにて「Wordマクロで仕事革命」を、アルクの翻訳・通訳のトビラにて「新田順也の使える『Wordマクロ塾』入門編」を連載。Microsoft MVPのWord部門を2011年から4年連続で受賞。Wordで動く翻訳チェックソフト「色deチェック」等のWord用アドインを多数公開。

2014年度 第6回 JTF翻訳セミナー報告

2014 年度 第 6 回 JTF 翻訳セミナー

日　時 ● 2015 年 3 月 12 日（木）14：00 ～ 16：40

開催場所 ● 剛堂会館

テーマ ● 英文契約書：ここで差がつくワンポイント翻訳レッスン

講　師 ● 英文契約書翻訳者、企業国際コンサルタント／赤坂ビジネスコンサルティング代表
野口 幸雄
Noguchi Yukio

報告者 ● 西田 利弘（個人翻訳者）

SEMINAR

Tokyo
12
Mar.
2015

はじめに

英文契約書は、長い歴史的伝統に基づいて形式化・様式化された「決まり文句の集積体」である。基本的に、前文、実質条項、一般条項、結語・調印欄で構成され、重要な用語には、複数の意味がある一般用語（General Terms）ではなく、意味が一つしかない法律用語（Legal Terms）が使われる。（例）action「行動」⇒「訴訟（コモン・ロー）」、avoid「避ける」⇒「無効にする」、damages「損害」⇒「損害賠償」

英文契約書では、このような Authentic Legal English（正統派法律英語）がやさしい法律英語の実現を目指す Plain English Movement にもかかわらず依然として使われている。

英日翻訳のポイント

- 「義務・強制」を意味する shall は「せねばならない」、「するものとする」と訳す。
  must は、推定の意味もあるので使用しない。shall に代えて is obligated to, is required to を使える。

- 二重語（doublets）は、一語として訳す。例）made and entered into「作成された」、null and void「無効な」、any and all「すべての」。二重語はフレンチ・ノルマン民族による英国征服という歴史的背景（両民族の言語の違い）によるとされる。

- 英文契約導入部の consideration は「約因」と訳す。英米法では、Agreement は売買契約や秘密保持契約など双務契約 bilateral agreement と贈与契約など片務契約 unilateral agreement を含むが、Contract は Agreement の内で双務契約のみを指し、相互に義務の負担（consideration「約因」）が存在する。約因がない片務契約では契約違反があっても、日本など大陸法系諸国の契約法理論と違い、裁判所でも契約上の義務を履行強制できない場合があるとされる。

- hereunder は、under this Agreement、under this law などを意味する。under を「の下で」よりも「の上で」と訳す方が日本語として自然である。

- 英文契約で if clause の時制は、現在形とするが、日本文では過去形にするのが原則である。

- licensed patent は「実施許諾特許」、licensed trademark は「使用許諾商標」と訳す。日本の特許法では「実施許諾」、日本の商標法では「使用許諾」という用語が使われている。

- fail は「試みたが失敗する」、「努力したができなかった」と訳す。不可抗力条項などで fail in performance を「履行を怠る」と訳すことがあるが、「サボる」という語感が強すぎる。

・and、or の訳は「並びに」と「及び」、「又は」と「若しくは」を区別する。「と」、「そして」、「或いは」、「や」は使わない。

日英翻訳のポイント

・「生じる」の訳には、預金利息などプラスに生じる accrue と借入金利息などマイナスに生じる incur がある。

・「直ちに」immediately、「速やかに」promptly、「遅滞なく」without delay

・「保証」製品の品質保証などは warranty、他人の金銭債務保証などは guaranty

・「希望する」desire

・「信義・誠実」と good faith とは違う。in good faith は日本の民法で規定されている「信義・誠実の原則に従って」と一般に解釈されているが、英米法では、Parol Evidence Rule（口頭証拠排除の原則）に基づく概念であり、「契約に記載されている条項は誠実に守る」ことを意味すると考えられている。

英文契約の一般条項解釈・翻訳のポイント

一般条項には35、6種類の汎用例があるが、この翻訳が一番難しい。

・契約解釈条項
Construction of Agreement Clause

欧米諸国では、契約の原案を自社で作成した方が有利というのが常識であり、欧米諸国の当事者間の契約書に次のような条項がよく使用される。紛争が生じた場合、「原案作成側の義務を厳しく、権利を弱く解釈し、作成しなかった側の義務を弱く、権利を強く解釈する」というのがその趣旨である。日本の会社が契約当事者の場合、英文契約書作成能力の問題から原案を自ら作成する努力をせず、相手方の作成した原案に基づいて交渉することで満足している。日本人には、この条項の存在を殆ど知らされておらず、この条項が日本の会社を一方当事者とする国際契約に殆ど採用されない。

This Agreement shall not be construed more strictly against one party than the other merely by reason of the fact that it may have been prepared by counsel for one of the parties, it being recognized that both Seller and Purchaser have contributed substantially and materially to the preparation of this Agreement. Each party acknowledges, and waives any claim contesting, the existence and the adequacy of the consideration given by the other in entering into this Agreement.

［講師訳例］
「売主」及び「買主」双方が、本契約の作成準備に多大な且つ実質的な貢献を行ったとの認識に基づき、この契約書が単に当事者の一方の弁護士によって準備されたかもしれないことのみを根拠として、一方の当事者に対する本契約の解釈が他方の当事者に対する解釈よりも、より厳しく解釈されることがあってはならない。各当事者は、本契約締結にあたって、相手方当事者が提供した対価の存在とその相当性を認識し、且つ、一切の紛争的な請求を放棄するものである。

・当事者関係条項
Relationship of Parties Clause

契約書記載の当事者間の関係が現在・将来において新たな特定の契約関係を生じさせたり、その前提となったりしないことを確認するために記載する。

・準拠法条項
Governing Law Clause

準拠法は、契約当事者間の交渉上の立場の強弱で決定されるが、不動産売買などで不動産の所在地の法律を適用せざるを得ない場合がある（属地法主義）。両当事者の交渉力が対等で互いに譲り合わなかった場合、第三国の法律を準拠法にすることがあるが、当該第三国の国内法である国際私法（Conflict of Laws）により当該第三国の裁判所がその国の法律の適用を拒否する場合がある。

・仲裁条項
Arbitration Clause

仲裁は一審制非公開で行われる訴訟外紛争解決手段。仲裁裁定（award）は、判決のように強制執行力がないので、「ニューヨーク条約」（仲裁裁定を執行判決に切り替える手続きを認めた国際条約）に加盟していない国の契約相手当事者は、仲裁裁定を履行せずに逃げることがあり得る。仲裁は世界的に増加しているが、日本ではあまり利用されていない。

野口 幸雄
Noguchi Yukio

PROFILE

東京大学法学部卒業と同時に、味の素（株）入社。米国、ドイツ、フランスの駐在員を延べ9年間勤務の後、本社法務部門の担当者・責任者（役員待遇）として約20年間、内外の合弁事業、M&A、輸出入等の各方面の国際契約業務等に携わった。会社退職後、1999年から6年間、翻訳学校バベル・ユニバーシティ専任講師として、英文契約書の読み方・書き方の講義を担当、一方、各地の日本貿易振興機構（JETRO）、商工会議所、海外取引企業等で、英文契約書のセミナー講師を勤め、また、海外取引企業の英文契約コンサルタントを勤める。著書に、「基礎からわかる英文契約書」（2006年 かんき出版）、「ひと目でわかる英文契約書」（2011年 かんき出版）がある。

翻訳会社の声
Found in Translation Company

真のコミュニケーションで世界を幸せにする

株式会社インターブックス
代表取締役
松元 洋一

今年度が会社設立から25年目にあたり、ちょうど四半世紀を迎えることになりました。今回名誉なことに日本翻訳連盟様から執筆のご依頼があり、会社の振り返りにもちょうどいい機会であるので快くお引き受けした次第です。初めに会社の紹介およびビジョンを語らせていただき、次に会社のこれまでの変遷、最後に翻訳業界を目指す方にとってのアドバイスという構成でまとめてみたいと思います。

情報の送り手と受け手をつなぐ×良質なメディアの創造

まず初めにインターブックスという社名についてですが、『送り手と受け手をつなぐ』という意味のINTERと、『質の高いメディア』の創造を志す気持ちをこめたBOOKSを合成させた造語です。私たちの強みは創立当初から翻訳に加えて、編集「つくる」、出版「情報を発信する」という3つの柱を持っています。雑誌の編集から書籍の編集・出版までライター、校正、校閲、デザイナーなどのプロフェッショナルなスタッフやパートナーを抱えており、それぞれの専門家が、最適なコストパフォーマンスでクオリティの高い作品を創り出します。原稿作成、編集、翻訳、DTP、印刷までワンストップの作業が可能で、そこには創立当初からのマッキントッシュを使った多言語DTP作業と多言語の編集・出版業のノウハウというインターブックスの遺伝子が脈々と引き継がれています。

会社のビジョンは「言葉の壁をなくし、真のコミュニケーションで世界を幸せにする」です。現在、インターネットやソーシャルネットワークが普及して、世界中の人々が身近な存在になりつつありますが、言語が障壁になり自由にコミュニケーションが取れているとは程遠い状況です。「真のコミュニケーション」とは何かと考えてみると、単純に、他の国の言語をほかの国の言語に置き換えるのではなく、相手の国の文化や歴史、環境などさまざまな要素を理解して相手に伝えるということではないかと考えます。私たちは、翻訳・編集・出版という仕事を通して、グローバル時代のビジネスや文化のコミュニケーションのお手伝いをします。さらに、外国語を日本語に翻訳するだけでなく、日本の文化、技術、思想、情報などを海外に発信し、日本と諸外国との架け橋となる存在でありたいと思っています。

幅広い分野、言語で信頼を得る

翻訳分野は年々分野が広がっていき、知財特許から金融、法務、国際関係、学術、観光、コミックまで幅広く取り組んでいます。分野が多岐にわたるので品質管理が大変になりますが、パートナー翻訳者も1500名、85ヶ国を超え、さまざまな分野の翻訳に取り組んでもらっています。最近特にご依頼の多いのがインバウンド・観光分野で、やはり2020年のオリンピックに向けて日本全体が訪日外国人の受け入れ態勢に力を入れている気がします。2014年には訪日外国人数も1300万人を超え、免税法が改正され、百貨店やドラッグストア、コンビニエンスストアおよび飲食業界などさまざまな業界で訪日外国人に向けての多言語対応に力を入れています。そんな中、弊社でも多言語の需要に対応するため外国人スタッフの増強や外国人インターン生を積極的に受け入れています。また、新しい取り組みとしてNICT(情報通信研究機構)様、凸版印刷株式会社様への翻訳支援システムのコンサルティングを行い、大規模な翻訳にも対応できる体制も整えました。今後クラウド時代の世界規模の翻訳にどう対応していくか実力が試されています。

ニッポンの技術のすばらしさを世界に

一昨年には、これまでの翻訳事業に加え、日本企業の海外特許出願のお手伝いをするべく外国人弁理士による海外特許出願の会社を立ち上げました（バンゼン合同会社：http://www.vanzen.jp）。 日本語対応可能な外国人弁理士と外国実務に強い日本人弁理士による協同の翻訳リバイズ作業により、単なる翻訳では伝えきれない、特許審査官にとってわかりやすくかつ特許内容を包括した強い外国語の特許明細書を作成することを目指しています。国内の特許出願はここ数年減少に転じていますが、外国への出願の比率は上がっており、今後はさらに外国出願の重要性は増していくと思われます。企業にとって国際的な知財戦略の強化は失敗できない取り組みですから、特許翻訳を提供する者には、技術知識・法制度理解・言語センス・スピードがより厳しく求められます。以前から特許関係の翻訳案件をお受けすることはよくあったのですが、特に最近は国内の企業が中国など英語以外の国の知財戦略にますます力を入れてきているため、多言語の特許出願にまつわる翻訳案件数も伸びてきています。今や知的財産分野においては世界規模の攻防が始まっており、日本の企業も決して無縁ではありません。グローバル企業は攻防一体の戦略がますます必要となってきます。「特許を武器に、知財戦略に“万全”の備えを――」。これが社名の由来です。ここでも高品質な翻訳が活躍しており、日本企業のグローバル化のお手伝いをしております。

翻訳業界を目指す方に

以上述べてきたように、これから翻訳コーディネーターや、翻訳者を目指す方にとって、翻訳業界は今後将来性があり、魅力ある業界であると思います。

翻訳コーディネーターを目指す方はたいてい語学が好きで翻訳業界を目指してきますが、語学だけでなくコミュニケーション能力がとても要求されます。翻訳者、品質チェッカー、クライアントの間に入って、限られた納期の中で、翻訳者の力量を最大限に引き出し、かつクライアントの要望を的確に反映した納品物に仕上げなければなりません。非常にプレッシャーもかかりますが、大きなプロジェクト等をチームでやり通した時は、世の中の役に立っているという実感が湧いてきて嬉しいものです。特にインターブックスでは、翻訳工程のほかに編集やデザインレイアウトなど、翻訳以外の工程がありますので、出来上がったサイトや印刷物を手にした時の喜びはひとしお です。

また日本に長い間滞在もしくは永住されている外国人翻訳者によく見受けられるのですが、今現在発信されている現地の外国語ではなく、ご本人が来日してきた当時の外国語を使うという浦島太郎化してしまう現象が見受けられます。新鮮な現地の生の外国語を使いこなすには、日々現地で発信される新しい情報やニュースに対して「この単語やフレーズはどのように訳されるのだろうか」など自分のアンテナを張って常に言葉に対して強い好奇心を持っていることが大切だと思います。また、翻訳者全体に言えることですが、翻訳の品質がいいのは当然ですが、それ以前に「こまめに連絡をいただける」「翻訳にあたっていろいろ資料を探してコメントをわかりやすくつけていただける」「あらかじめ自分の予定を教えてくれる」など、やはりコーディネーターとのコミュニケーションがうまく取れることが翻訳会社と長くお付き合いできるコツだと思います。

最後になりますが、翻訳や翻訳に関連するお仕事というのは、外国語と外国語を結ぶいわゆる異文化コミュニケーションを取り持つお仕事ですから、他の国に対するリスペクトや文化理解が欠かせません。これから翻訳業界を目指す方にとってこれらのアドバイスがお役に立てば幸いです。

Writer Profile

松元 洋一

Matsumoto Yoichi

株式会社インターブックス　代表取締役

1965年東京生まれ。早稲田大学卒業後の1991年に大学の仲間とともに会社を設立。大学と地域に開かれたグループを目指して、早稲田大学マックユーザーズグループ(WMUG)を立ち上げる。設立当初からマッキントッシュを使って、英語、韓国語、モンゴル語、タイ語、中国語、ポルトガル語、アラビア語などのマルチリンガルに対応したネットワーク環境を作る。幼少に剣道を覚え、学生時代から坐禅（30年）、40歳から合気道（6年）を続けている。

http://www.interbooks.co.jp/

フリースタイル、翻訳ライフ

MISSION STATEMENT

「意外と知られていないフリーランス翻訳者の素顔をさぐる」シリーズ、なんと4年目に突入です。このコラムを始めた2012年春以降も、いろんな翻訳者さんたちと出会うことができました。そのなかでとてもうれしかったのは、人と人とのつながりをきっかけに、日本各地で「翻訳者による自主勉強会」が生まれてきたことです。翻訳者が日々勉強を続けるのは、個人レベルなら当然のことですし、小規模な勉強会は以前からありましたが、こういう形で横のつながりが広がったのは、ここ最近のすばらしい傾向だと思います。

そこで、今年はそんな各地の勉強会の様子を、代表者に紹介していただくことにしました。連絡先も書いてありますので、お近くで興味を持たれた方はぜひ、参加してみてください！

Column 01 Owner

高橋 聡

Takahashi Akira

PROFILE

CG以前の特撮と帽子をこよなく愛する実務翻訳者。翻訳学校講師。学習塾講師と雑多翻訳の二足のわらじ生活を約10年、ローカライズ系翻訳会社の社内翻訳者生活を約8年経たのち、2007年にフリーランスに。現在はIT・テクニカル文書全般の翻訳を手がけつつ、翻訳学校や各種SNSの翻訳者コミュニティに出没。

■ブログ「禿頭帽子屋の独語妄言」
http://baldhatter.txt-nifty.com/misc/

勉強会が教えてくれること

日英翻訳者
中澤 甘菜

日英翻訳者の中澤甘菜です。翻訳とヨガに明け暮れる毎日ですが、今回は、名古屋翻訳者勉強会の様子をお伝えします。

名古屋翻訳者勉強会は2014年1月に発足しました。きっかけは、2013年10月に名古屋で開催されたIJET-25（JAT主催の第25回 英日・日英翻訳国際会議 東京大会）のプレイベントです。プレイベントには、本コラムオーナーの高橋聡さんが登壇され、40席のチケットが早々に売り切れとなる大盛況でした。そこで知り合った翻訳者の皆さんに声をかけて始めたのが名古屋翻訳者勉強会です。

これまでの勉強会は、地元や他都市からのスピーカー2、3名によるセッションと、皆で取り組むワークショップなどで構成しています。平均的に20名以上の参加者があり、社内翻訳者とフリーランスの比率は約半々といったところです。参加者の翻訳分野が様々なため、いままでのセッションはツールに関するものが一番多く、セルフマーケティングに関するセッションや、ほんやく検定対策講座、また文学書を半ページほどグループに分かれて訳してみるというセッションも行いました。スピーカーとして登壇された皆さんのセッションはどれも学ぶことが多く、集まって一緒に勉強するという勉強会の目的を十二分に満たしてくださっています。

勉強会の後は、近くのレストランで懇親会を開いています。前回の勉強会は午前中だったため、名古屋コーチンのお店でランチ会を行いました。この他にも、イタリアンや火鍋を食べにいったりと、懇親会だけのイベントも度々開催しています。

勉強会の運営については、名古屋近郊の翻訳者の皆さんに色々手伝っていただいています。思い起こすと、第1回の勉強会では、領収書を一枚一枚手書きしていたために受付に時間がかかり、セッション中も領収書を書き続けていました。ですが、2回目以降は、その反省を生かして清水智香さんが名前や金額などを入れた台紙を事前に準備してくださり、とてもスムーズに受付を行うことができました。自分ではまったく考えがおよんでいなかったポイントだったので、とても助かりました。また、懇親会の会場はほぼ毎回、名古屋生まれ名古屋育ちの上池直美さんがおいしいお店を厳選してくださっています。前回の勉強会では、出席者の名簿管理も他の方に手伝っていただき、皆さんの手厚いサポートのもとに勉強会の運営ができています。

これまで何度か勉強会を主催してきて感じることは、勉強会という場所には、本当に翻訳が好きな人が集まるということです。翻訳

の経験に差はありますが、向上心がある方々が集まるため、どんな翻訳支援ツールを使っているのか、どうやったら効率的に翻訳をできるのか、といった話題が休憩時間にはつきません。少し話がずれますが、自分は普段、社内で翻訳をしています。この環境においては、翻訳に関する周りの理解が低かったり、翻訳品質に関する考えが違ったりと、モチベーションが下がってしまうこともよくあります。ですが、名古屋翻訳者勉強会には本当にポジティブな方が多く、会に参加することで元気をもらっています。また、勉強会で英語や翻訳についての話をしていると、「やっぱり翻訳が好きだな」ということを思い出すことができるのです。

名古屋翻訳者勉強会には毎回、大阪や神奈川県などの遠方からはるばる来てくださる参加者がいます。勉強会は半日程度で終わるので、残りの時間は名古屋メシを満喫したり、名古屋観光をしたり、名古屋在住の旧友と会ったりと、それぞれ名古屋滞在を楽しんでいるようです。実は自分も先日、静岡の勉強会に参加させていただいたのですが、勉強会の前に、現地の翻訳者の皆さんにランチへ連れていってもらい、勉強会目的の小旅行の楽しさを実感しました。今後も、県外から名古屋翻訳者勉強会へ、また名古屋から他の地方の勉強会へと交流がつながっていけば楽しそうです。

勉強会のような有志の会は、金銭的なメリットがどこにも発生するわけではないので、難しさを感じることもあります。ですが、街にひとつはこんな会（翻訳者のたまり場）が必要ではないでしょうか。何より名古屋翻訳者勉強会は自分にとって大切な場所となりつつあるので、今後もゆったりペースで続けていきたいと思っています。そして、この名古屋翻訳者勉強会がインプットだけではなく、翻訳者のアウトプットの場として少しずつ定着していけば嬉しいです。

自分の場合、会社以外の翻訳者との交流は、2013年初めに大阪や東京の翻訳者の集まりに参加し始めて広がっていきました。普段は Facebook で交流することが多い翻訳者の仲間たちですが、この数年間、アドバイスをいただいたり、元気づけていただいたり、グチを聞いてもらったりと大変お世話になっています。いまではかけがえのない存在となった翻訳者ネットワーク。そんな翻訳者の輪が、ここ名古屋から名古屋翻訳者勉強会を通じて、さらに広がっていくことを期待しています。

名古屋翻訳者勉強会：
ngobenkyokai@gmail.com
http://ngobenkyokai.wix.com/home

Writer Profile

中澤 甘菜
Nakazawa Kanna

ニュージーランドでの高校生活、アメリカでの大学生活、そしてイギリスでのワーホリ生活を経て2007年に翻訳の仕事に就く。北海道出身。夫の転職で愛知県に引っ越してきて9年。2013年に、1度社内翻訳の仕事を辞し、オーストラリアで1ヶ月間ヨガ通訳をおこなう。現在はまた電機メーカーの社内翻訳者として勤務。

人間翻訳者の仕事部屋

MISSION STATEMENT

フリーランス翻訳者になり15年目に入りました。最初の10年はがむしゃらに走ってきました。10年後、20年後の翻訳者としてのキャリアを模索し、いろいろな方のお話を伺ってきました。向こう10年、20年、30年の翻訳者としてのキャリアプラン、ライフプランを立てる上で、業界で活躍されている翻訳者の方々のお仕事ぶりを拝見したい、と思い、このコラムでは、2000字、翻訳、というお題に対して映し出される「人間翻訳者」の方々の「仕事部屋」を拝見したいと思います。皆さん方の「機械翻訳」に負けない「人間翻訳者」としてのキャリアの一助となれば幸いです。

Column 02 Owner

矢能 千秋

Yano Chiaki

PROFILE

University of Redlands卒。サイマル・アカデミー翻訳者養成コース本科(日英)修了。NPOえむ・えむ国際交流協会(代表:村松 増美)事務局を経て、現在フリーランス15年目、JAT会員11年目。JATではアンソロジー委員会、ウェブサイト・コンテンツ委員会に所属。英語ネイティブ校正者とペアを組み、スピーチ、ウェブコンテンツ、印刷物、鉄道、環境分野における日英・英日翻訳に従事。2012年よりサン・フレアアカデミーにてオープンスクール講師。

■Twitter: @ChiakiYano
■ブログ: http://chiakiyano.blog.so-net.ne.jp/
■http://jat.org/translators/4596

実務から書籍へ、そして翻訳会社

仏語翻訳家

山本 知子

大学時代のアルバイトをきっかけに、多言語書籍翻訳会社を経営する現在まで、気がつけば35年以上も「翻訳」の世界に身を置いてきた。

仏語を始めたのは高校時代だが、大学の学部は政治経済学部だった。大学4年のときにフランスに留学する機会があった。帰ってきてからも就職する気になれず、かといって親のすねはかじれない。そこで、仏語専門の実務翻訳の会社でアルバイトをすることになった。原稿運びが主な仕事のはずだったが、数日経たないうちにレターの仏和訳を頼まれた。翌々日に渡されたのは、訳し上がり400字で30枚もあろうかという契約書。しかも二日後が納期という。当時はまだ、原稿用紙に手書きだった。辞書と消しゴムを片手に徹夜でその仕事を仕上げた。

それからほぼ四半世紀、フリーの翻訳者として仏語の実務翻訳を続けた。英語の翻訳者であれば得意分野をもち、その分野の仕事がコンスタントに来ることも多いだろうが、仏語はそうはいかない。需要も少なければ翻訳者も少ない。かくして、ファッション記事を訳したかと思ったら、今度は核燃料処理マニュアル、次は法令の条文といった具合に、医療関係以外は何でも訳した。さすがに原稿用紙は姿を消し、ワープロを使っていたが、インターネットの登場はまだまだ先の話。仏日の専門辞書もほとんどない。毎日、図書館に通いながら専門書を速読し、英仏辞書と英日辞書を重ね引きしつつ、知らない分野の専門用語と格闘した。

バブル崩壊とともに企業関係の翻訳の仕事が急激に減った時期もあった。そんななか、なぜか減らなかったのは特許翻訳。特許翻訳には特有の書式と文体が必要である。訳文も関係代名詞も下から訳すといった直訳・逐語訳が好まれる。だがいったん文体をマスターしてしまえば、他のジャンルの翻訳よりはるかにスピーディーに翻訳ができる。しかも翻訳料も高い。その後何年間か、特許の翻訳を切れ目なく依頼された。

そして1999年、ある翻訳会社から、仏語の書籍翻訳者のコンペに参加しないか、と誘いを受けた。米大統領のスキャンダルを題材にフランス人の女性歴史学者が米国の民主主義を斬る、というテーマの本だという。政治学科卒という経歴を見て、私に声をかけてくれたらしい。書籍はまったく初めてだった。翻訳講座のようなところにも一度も通ったことがない。でも、課題のページを訳すと意外に楽しかった。一週間後、私が選ばれたと連絡を受けた。あとから聞いた話だが、決め手は冒頭の一文だったらしい。

実務と違い、書籍翻訳には多くの時間がかかるが、翻訳印税はさほどいただけない。まさしく労多くして益少なし……。だが、店頭に本が並び、新聞のコラムでその本がとりあげられたときの感動は今も忘れられない。

しばらくすると二冊目の仕事が舞い込んだ。『数の寓話』という、数学をベースにしたおとぎ話だと

いう。原書にはところどころ数式が並んでいる。この数式に拒絶反応を示す翻訳者が多かったのだろう。だが私は、実務翻訳の原稿の中にたまに数式が出てくるものもあったので、数学本にもあまり抵抗がなく、二つ返事で引き受けた。

その後、実務翻訳と並行して年に3～4冊のペースで書籍翻訳を続けることになる。実務でありとあらゆる分野をかじった経験が功を奏して、国際情勢やサイエンス系をはじめいろいろなノンフィクションの声がかかった。ファンタジーシリーズの翻訳の依頼も受け、これまでにフィクション・ノンフィクションを問わず、30点あまりを訳している。書籍でもまた「何でも翻訳家」である。

その頃、9.11のテロなどをきっかけに、日本の出版業界も英語以外の情報や書籍に目を向けるようになった。どこの出版社に行っても、編集者が「英語以外の本に興味がある」と言う。そこで、私の周りの多言語の翻訳者たちを集めてみた。そして、2003年9月、仏語・英語・イタリア語・スペイン語・中国語・韓国語の翻訳者、計8人で多言語翻訳会社（有）リベルを正式に設立した。その後、英語以外の書籍翻訳ができると便利がられ、いろいろな出版社から仕事をいただくようになった。

だがここ数年は英語が増え、今は英語翻訳の割合が一番多く、現在の弊社スタッフも英語翻訳者がほとんどである。設立以来、スタッフ全員が翻訳者であるというスタンスは変わっておらず、スタッフは、日々、書籍翻訳のコーディネイトや外注翻訳者さんの原稿のチェックやリライトをする。その傍ら、自分の訳書も出しつづけるというのは至難の業である。今年に入り、隔週日曜日に翻訳セミナーも開催しているので休日返上も多い。スタッフは本当に頑張ってくれていると思う。私自身もここ数年、自らの書籍翻訳を減らし、訳書は年間2冊程度である。リベルの仕事に忙殺されていることもあるが、実力ある翻訳者に書籍翻訳のチャンスをという思いが強い。

弊社が翻訳を手がけた書籍で昨年刊行されたのは64点。今年は倍近くに増えそうだ。登録翻訳者さんの数はおよそ300名だが、今回のセミナー受講者の方にもさっそくトライアルやリーディングをお願いし、すでに書籍翻訳を依頼している方もいる。

出版業界の不況が言われて久しい。だが、出版点数はそれほど減っていない。むしろ、弊社に依頼の来る書籍数は年々増えている。最近の翻訳本に大ヒット作がいくつかあるのも希望の兆しといえるだろう。国際社会に生きる日本人にとって海外についての知識が不可欠である以上、翻訳という仕事がなくなることはない。

実務翻訳は、仕事の終わりと報酬額や支払い時期がはっきりしているという点が長所だと思う。書籍翻訳は、時間はかかるしお金にもならないのだが、作品という形になるという達成感がある。そしてどちらも、翻訳者の性別・年齢・それまでの経歴に関係なく、また性格が外向型だろうが内向型だろうが、質の高い訳稿さえ出せば評価され、次の仕事につながっていく。そしてどちらも、「海外と自国をつなぐ」という、なんとも魅力的な仕事であることは間違いない。

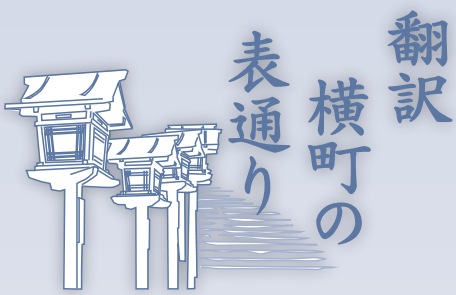
なお「リベル翻訳セミナー2015 フィクション編」は4月で終了しますが、続けて「ノンフィクション編」の開催を予定しています。詳細をお知りになりたい方は、以下のHPからお問い合わせください。
http://www.liber-ltd.com

締め切り間際の社内

Writer Profile

山本 知子
Yamamoto Tomoko

仏語翻訳家。株式会社リベル代表取締役。早稲田大学政治経済学部卒。東京大学新聞研究所研究課程修了。大学卒業後、フリーの仏語翻訳者として、特許をはじめあらゆるジャンルの実務翻訳を手がけ、その後、2000年に『罠』（万来舎）で書籍翻訳家としてデビュー。国際情勢やサイエンス系などのノンフィクションから、絵本・児童書・小説といったフィクションまで幅広い訳書をもつ。『ぬりつぶされた真実』（幻冬舎）、『中国の血』（文藝春秋）、『星々の蝶』（NHK出版）、『タラ・ダンカン』シリーズ（メディアファクトリー）など訳書は30点以上。
2003年、さまざまな言語の翻訳者とともに多言語書籍翻訳会社リベルを設立。
これまでに数百点に及ぶ訳稿やレジュメをチェック&リライトし、多くの翻訳者に書籍翻訳デビューのきっかけをつくっている。
office@liber-ltd.com
http://www.liber-ltd.com



MISSION STATEMENT

今年の「翻訳横丁の表通り」は、ツールに焦点を当てた記事をお届けします。

ツールとひとことで言っても、それはソフトウェアであったりハードウェアであったり、時には翻訳に必要な能力、アプローチ、考え方であるかもしれません。そこにあるのは、少しでも自分の翻訳を良くしよう、少しでも自分の翻訳作業環境を改善しようという前向きな「想い」だと思います。ここに紹介する記事から執筆者の想いを感じとり、そして、少しでも皆さんの翻訳に役立てていただければ嬉しいです。

Column 03
Owner
齊藤 貴昭
Saito Takaaki

PROFILE

電子機器メーカーにて開発／製造から市場までの品質管理に長年従事。5 年間の米国赴任から帰国後、社内通訳・翻訳者を6 年間経験。2007 年から翻訳コーディネータ兼翻訳者として従事。「翻訳者 SNS コーディネータ」として業界活動に精を出す。ポタリングが趣味。甘いもの好き。Twitter や Blog「翻訳横丁の裏路地」にて翻訳に関する情報発信をしています。

■Twitter: terrysaito
■Blog: http://terrysaito.com

No AHK, No Life

フリーランス翻訳者
松本 明彦

今回は、私が翻訳作業を効率化するために愛用している「AutoHotkey（AHK）」を紹介します。

AHKとは

AHK は、Windows 環境の操作を「自動化」できる非常に便利なフリーウェアです。翻訳者専用ではなく汎用のソフトウェアで、世界中で広く使用されています。公式サイト（http://ahkscript.org/）からインストーラをダウンロードして実行すると、環境に適したバージョンが自動的にインストールされます。AHK は多数の機能を備えており、翻訳にともなうさまざまな作業を効率化できます。ただし、AHK は、いわば「マクロ言語」なので、スクリプトを書かないと基本的に何もできません。

使用例

簡単な例として、

テキストを全選択して切り取り、改行を5個入れた後に貼り付ける

という操作を「F1キーを押す」だけで実行するスクリプトを作成すると、次のようになります。

```
F1:: Send, ^a^x{Enter 5}^v
```

このスクリプトを空白のテキストファイルに書いて保存し、拡張子を .ahk に変更する（test.ahk など）と完成です。AHK のスクリプトでは「^」が「Ctrl キー」に対応していて、「Send, ^a^x{Enter 5}^v」の部分は「Ctrl ＋ A キーを押して Ctrl ＋ X キーを押し、Enter キーを5回押して Ctrl ＋ V キーを押す」という操作を表します。このスクリプトを実行しておくと、いつでも、「F1キーを押す」だけで上記の操作を実行できます。

スクリプトの実行中は、トリガーとなるキー（このスクリプトでは F1キー）による通常の操作（ヘルプの表示など）は原則としてできなくなります。ただし、スクリプトは、いつでも簡単に一時停止または終了することができますし、「通常の操作」を同時に実行するスクリプトも作成できます。

Word マクロなどでも同様の自動化ができますが、AHK は「Word 上の操作だけ」を自動化するのではなく「Windows 上の操作」を自動化するので、この AHK スクリプト1つで、Windows 標準操作が可能な任意のソフトウェアにおいて、この操作を自動的に実行できます。

上記のスクリプトでは「Send」というコマンドを使用していますが、このようなコマンドが現時点

で400前後もあり、それらを組み合わせて、いろいろな操作を自動化できます。たとえば、「Run」というコマンドを使用すると、メモ帳、Word、電子辞書ソフトウェアといった任意のプログラムを実行できるだけでなく、特定のファイルやフォルダを開いたり、ウェブサイトにアクセスしたりすることができます。これを他のコマンドと組み合わせて、

選択されている文字列をGoogle検索する

という操作を「右のAltキーを押す」ことで実行するスクリプトを作成すると、次のようになります。

```
RAlt::
Send, ^c
ClipWait, 1
Run, http://www.google.com/search?q=%Clipboard%&gws_rd=ssl
Return
```

このスクリプトにより、Wordなどで文字列を選択状態にして右のAltキーを押すと、その文字列をGoogle検索できます。Excel、PDF、ウェブブラウザ、TRADOS、電子辞書ソフトウェアなど、テキストを選択できる場所であれば、どこでも実行できます。また、「検索後にウェブブラウザに移動してしまうカーソルを元のソフトウェアに戻す」といった操作も組み込めます。

Google検索も、単純な検索だけでなく、フレーズ検索や、加工（「ies」や「ied」の「y」への変更など）してからの検索、中国語版やドイツ語版のGoogleだけの検索、特定企業のウェブサイト内だけの検索も可能です。

英辞郎やWeblioはもちろん、他のウェブ辞書検索ツールでは対応できないタイプのウェブ辞書も検索できます。ウェブ辞書のオプション（「部分一致」と「完全一致」の切り替えなど）も選択できます。さらに、PASORAMA、Dicregate、Logophileなどの電子辞書ツールや、かんざし、KWIC Finder、MultiTermなどの検索ツール、Excelファイルの用語集などにも文字列を送って同時に検索できます。

トリガーとなるキーも、Pauseキーなどを含め、キーボード上のほとんどすべてのキーを単独で、または「Alt＋Shift＋Tキー」や「無変換＋Sキー」のように組み合わせて使用できます。さらに、マウスのクリック、ファイルの操作、特定の時間などをトリガーとすることもできます。

画面上の特定のボタンや場所を仮想的に「クリック」することもできるため、ショートカットキーが割り当てられていないボタン、リンク、入力欄などを、F1などのキーを押すことでクリックすることもできます。

ソフトウェア、ファイル、フォルダなどを指定した順番、場所、大きさで開くこともできます。メッセージ、入力欄、メニュー、チェックボックス、ラジオボタン、ツールチップなどを使用して独自のインターフェースを作成することも可能です。このため、プログラムランチャーのようなものも作成できます。音声ファイルの実行や、スピーカーの音量の調節もできます。正規表現による検索や置換も行えます。ファイルの作成、ファイルへの書き込み、計算/演算、COMモジュールやDLLの操作などもできるため、「選択した文字列のURLエンコードを生成してアドレスと合成し、ウェブブラウザを起動してアドレス欄に貼り付ける」といった複雑な処理も自動化できます。

スクリプトファイルを実行ファイルに変換するツールも付属しており、変換した実行ファイルを使用することで、AHKがインストールされていないPCでもスクリプトを実行できます。

おわりに

AHKは柔軟にいろいろなことができる本当に便利なソフトウェアです。慣れるまではハードルが高い部分もありますが、さまざまなマクロ言語の中では比較的簡単な部類に入ると思います。また、以前に比べて、AHKについて詳しく紹介している日本語のウェブサイトも増えてきており、情報を入手しやすくなっています。翻訳作業を効率化するために、ぜひAHKを活用してみてください。

Writer Profile

松本 明彦
Matsumoto Akihiko

IT関連ドキュメントの英日翻訳を専門とするフリーランス翻訳者。TRADOS使用歴10年以上。創価大学大学院修士課程（アメリカ哲学専攻）修了後、バベル翻訳・外語学院（現、BABEL UNIVERSITY）の通学部で『ミニマル・トランスレーション』著者の小沢勉先生や『ビジネス翻訳50のヒント』著者の小舘光正先生からコンピュータ関連ドキュメントの翻訳を学ぶ。某翻訳会社の社内チェッカーを経てフリーランス翻訳者として独立。ここのところポストエディットの仕事を依頼されることが多く、苦手だったポストエディットも最近ではおもしろくなってきたため、「ポストエディタ」として専門的にやってみようかと思案中。「翻訳者のためのマクロ勉強会」（通称、「ほんまかい」）の大阪方面スタッフの一員。SNSは主にFacebookを利用しており、ほんまかいのFacebookグループ「ほんまかい本丸」など、いくつかの翻訳者グループに参加中。大阪府枚方市在住。

WordSmyth Café

MISSION STATEMENT

WordSmyth Café は、翻訳に関わる人々が集う「誌上カフェ」です。当コーナーでは、毎号異なる執筆者にご登場願い、翻訳を含む言語に関わるさまざまなテーマを取り上げます。名前の WordSmyth（ワードスミス）は、wordsmith（言葉の職人）と myth（神話＝お話）を組み合わせた造語です。「言葉の職人として、さまざまな物語を紡ぎたい」という店主の願いを表しています。

Column 04 Owner

遠田 和子
Enda Kazuko

PROFILE

日英翻訳の傍ら翻訳学校での講師、またプレゼン研修の講師をしています。著書に、「英語なるほどライティング」、「Google英文ライティング」、「eリーディング英語学習法」、「あいさつ・あいづち・あいきょうで3倍話せる英会話」（講談社）があります。趣味は読書・映画・旅行です。また英語スピーチの練習、バレエのレッスンを続けています。それぞれ少しでも上手くなるため、地道に努力しています。

＊Website: WordSmyth 英語ラボ
http://www.wordsmyth.jp
＊Facebook Page: WordSmyth
http://www.facebook.com/wordsmythlab
＊e-reading ブログ: One Chapter Reading Club
http://minamimuki.com/fun-and-free

医師と翻訳者の狭間で

—論文英訳に思いを馳せて—

医師・翻訳者
小林 はる美

皆さま初めまして。医師兼翻訳者の小林はる美と申します。「医学界」と「翻訳業界」という2つの異なる世界を、日々行き来しています。翻訳業界のしきたりなども知らないまま、あるときは目を白黒させ、またあるときはコーディネーターさんを仰天させながら、「アクセプトされる論文に仕上げたい！」という熱い思いで突っ走っています。こんな私が翻訳に携わるようになってから、もう少しで2年。医師でいえば、ちょうど研修医を終え、いよいよ独り立ちのころです。この一区切りとも言える時期に、これまでの2年間を振り返り、医師の目から見た翻訳業界への感想なども綴ってみたいと思います。

私は、地方都市にある小さな翻訳会社（A 社）にフリーランス翻訳者として登録しています。100% 手作業の論文英訳を主な業務としている会社です。純粋な医学論文は少ないので、私は医学以外の分野に対応することが多くあります。しかし、これまで医学や治験関連の翻訳講座を受講する一方、テクニカルライティングの勉強に多くの時間を費やしてきたせいか、それほど抵抗感なく医学以外の分野にも取り組んでいます。とは言うものの、たまに医学の原稿をいただくと、我が家に戻ったようなほっとした気分になる、というのが正直なところでしょうか。

チェッカーとして

私は翻訳業界でのキャリアを、チェッカーとしてスタートしました。チェッカーと一言で言っても、会社によって役割は様々でしょう。A 社では、フリーランスのチェッカーにも大きな役割が与えられています。ネイティブ校閲（NC）前の訳抜け・ケアレスミス・誤訳等のチェックや修正だけでなく、NC 後にネイティブ校閲者さんとやり取りしながら、納品できる状態にまで原稿を仕上げていきます。

翻訳者には一人ひとり仕事の仕方に個性があります。そのため、私は各人ごとにチェック前の準備を変えています。例えば、翻訳時の用語検索の詰めが甘いか否かにより、英訳が入稿するまでに用語を徹底的に検証しておくグループと、用語検索はさっと済ませて原文の読み込みに時間をかけるグループとに分けています。これにより、限られたチェックの時間を有効に使えるようになりました。また、原稿に資料が付いていない場合には資料を請求し、原稿に間違いや論理の矛盾、疑問点がある場合には、コーディネーターさんからお客様に問い合わせていただきます。「翻訳者を差し置いて」という気がしないでもありませんが、英訳の質を上げるために必要

ならば、誰であれ気付いた人がやればよいと考えています。

海外に住み、日本語や日本文化に馴染みのないネイティブ校閲者さんが理解しにくい内容に関しては、関連する英語サイトを探してURL を付けたり、背景知識について英語で説明文を書いたりします。また、アブストラクトのみの英訳では、論文の本文を読まないと分かりにくいので、該当部分の英文サマリーを作ることもあります。時間はかかりますが、ネイティブ校閲者さんからお礼の言葉が届いたりすると、疲れも吹っ飛びます。チェッカーの経験から、英訳の入稿後納品されるまでの工程を理解し、次工程に携わる人の負担を軽減することの大切さを学びました。

翻訳者として

論文の英訳では、正確であることは勿論のこと、簡潔・明快な英文を書くことを常に心がけています。多くの研究者は、忙しい研究時間をやりくりして論文を読む時間を捻出しているのが現状です。そんな研究者にとっての「理想の論文」は、短時間で効率よく必要な情報をピックアップできる論文です。必要な情報のみが浮き上がって見えるような論文なら最高です。現在、国際ジャーナルの読者の半数以上が英語ノンネイティブだと言われています。また非英語圏の査読者も増えています。研究者は世界中の一人でも多くの人に自分の研究を知ってもらい、世の中のために役立ちたい、との思いで論文を投稿します。ですから、長く難解な英文が読者を読解の途中で撃沈してしまうような「残念な論文」にはしたくありません。誰が読んでも読みやすく分かりやすい論文であれば、著者と読者の両者にとって「嬉しい論文」になります。

チェッカーとして仕上げまでの工程に関わった経験から、私は自分が英訳した案件についても、ネイティブ校閲者さんとやり取りしながら最終仕上げまで行います。自分の英文がどのような過程を経て、最終的にどのような形で納品されるのかを、自分の目で見届けています。翻訳者として最後まで関わるのは、大きな責任を背負うことにもなります。しかし、フィードバックすら貰えない翻訳者が多い中で、このような環境を提供してくださるA社には、とても感謝しています。

医師として

論文は、研究者が心血を注いだ努力の結晶です。したがって、使用言語に関わらず、論文は本来研究者自身が書くものだと考えています。しかし様々な事情により、論文の英訳を第三者に委ねることもあります。自分の分身のように大切な論文の総仕上げを見ず知らずの他人に託すのは、私だったら心配でたまりません。細心の注意を払い、図表はもちろんのこと、専門用語集や関連分野の文献リストなどあらゆる資料を添付し、翻訳者さんと緊密に連絡を取り合いながら作業を進めていくでしょう。

ところが現実には、最低限必要な資料さえなく、英語論文のなかに虫食い状に残った日本語の英訳など、愕然とするような依頼もあります。一体なぜ、このようなことが起きるのでしょうか。おそらく、かつての私がそうであったように、多くの研究者は「プロ」の翻訳者に頼めば、どんな原稿でも右から左へと簡単に英訳できると思っているのでしょう。知らない方には教えてあげませんか。お客様も翻訳チームの一員として互いに協力し合うことで、同じ料金でも数段質の高い英語論文が得られることを。私の耳には「それさぁ、早く言ってよぉ～」という声が聞こえるのですが、空耳でしょうか。

そして、これから

WORDSMYTH CAFÉ

変化し続ける世の中にあっても、時代の流れに抗うわけでもなく、ただ一徹に「我が道」を究めていく日本の職人。そんな職人さんの姿に心惹かれます。私もいつか、あの職人さんたちのような翻訳者になりたいと夢見ています。果てしなく遠い道のりですが、今この瞬間を楽しみながら歩んでいこうと思っています。

Writer Profile

小林 はる美
Kobayashi Harumi

医師・翻訳者。医学部卒業後、母校の放射線医学教室に入局。画像診断専門医。企業における産業医学および予防医学にも携わる。学生時代は馬術部に所属し、馬術の練習に明け暮れていた。医師になってからは、水泳にはまった一時期を経て、数年前からはストリートダンスが何よりの癒しになっている。かなりの朝型。夜明け前のケーキが日課になってしまい、ちょっと困っている。

募集 **広告募集のおしらせ**
翻訳者、翻訳会社を対象とする広告や特集記事に関連する広告を随時募集しています。詳しくは JTF 事務局までお問い合わせください。
JTF 事務局：TEL. 03-6228-6607
E-mail info@jtf.jp

Next Issue

次号予告

翻訳の未来を考える JTF JOURNAL

Jul/Aug 2015 #278

2015年7月3日発行予定
※発行日や内容は変更になる可能性があります。

特集「TAUSの挑戦」（仮題）

機械翻訳で現在の主流となっている統計的手法では
良質の言語資源（コーパス）をどれだけ大量に集められるかが翻訳品質を直接左右する重要な要素となっています。
いちはやく業界横断的なコーパス共有の枠組みを提唱した業界団体 TAUS は、
翻訳品質の評価や API の標準化にも意欲的に取り組んでいます。
次号では豊橋技術科学大学との提携により日本へのさらなる働きかけを試みる TAUS の最新状況をお知らせします。

Editor's note

2011年に本誌の編集長を拝命してから、私の中には『MultiLingual』という雑誌がめざすべき目標として輝き続けてきました。『MultiLingual』は年8回発行されている通翻訳業界誌であり、その表紙に掲げられた「Language, Technology, Business」の言葉に違わず、複合的な視点から品質の高い記事をバランスよく編集し、毎号刺激的な情報を提供してくれます。

通翻訳業界人であれば、『MultiLingual』を定期購読して世界全体の業界トレンドを把握し、それにくわえて『日本翻訳ジャーナル』を読めば日本のローカルな業界事情やコミュニティについて知ることができる、そういう媒体へと『日本翻訳ジャーナル』を育てあげることがひそかな個人的野望なのですが、“野望”の達成度は残念ながらまだ10%というのが実感です。

いろいろな制約はありますが、その中でできるだけ新しい試行錯誤に挑戦して、読者の皆さんに毎号なにか得るものがあった、と感じていただけるような誌面づくりを目指していきたいと思います。

編集長 **河野 弘毅**
Kawano Hiroki

一般社団法人 日本翻訳連盟 機関誌
JTF JOURNAL
日本翻訳ジャーナル
2015 年 5 月／6 月号 #277

発　行　2015 年 5 月 8 日
発行人　東 郁男（会長）
編集人　河野 弘毅
発行所　一般社団法人 日本翻訳連盟
〒 104-0031 東京都中央区京橋 3-9-2 宝国ビル 7F
TEL. 03-6228-6607　FAX. 03-6228-6604
info@jtf.jp　http://www.jtf.jp/
企画・編集　ジャーナル編集委員会
校正協力　豊田 麻友美、久松 紀子、松浦 悦子、矢能 千秋
表紙撮影　世良 武史
デザイン　中村 ヒロユキ（Charlie's HOUSE）
印刷　株式会社 プリントパック

翻訳・ローカリゼーション・
ドキュメンテーションサービス
TOIN
Communications for
a global marketplace

お客様のご要望に応えるため、更なるベストサービスを目指しています。

プロジェクトチームに参加しませんか？

〒141-0031 東京都品川区西五反田７丁目25番5号 オーク五反田ビル
TEL 03-5759-4371（BPM部採用担当窓口まで） http://www.to-in.com/ja（「お問い合わせ」）

New Standards in Translation

募集中！

営業、コーディネータ、校正スタッフなど、多くの人材を各拠点で募集しております！

言 語 英語・中国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語
韓国語 等（その他言語も募集中）

分 野 特許・工業・医薬・金融・ローカライゼーション

内 容 翻訳者・校正者・メディカルライター・通訳者・ワープロ外注
テープライター 等

応募方法 下記ウェブサイトからご応募下さい

株式会社 翻訳センター JASDAQ 証券コード:2483

大阪 大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号 大阪御堂筋ビル13階
TEL:06-6282-5010 E-Mail:info@honyakuctr.co.jp

東京 東京都港区三田3丁目13番12号 三田MTビル8階
TEL:03-6369-9965 E-Mail:freelance@honyakuctr.co.jp

名古屋 名古屋市中村区名駅3丁目16番4号 太陽生命名駅ビル5階
TEL:052-571-2101 E-Mail:nagoya@honyakuctr.co.jp

募集要項・会社概要等、詳しくはウェブサイトをご覧下さい http://www.honyakuctr.com/

対訳版 17100 予約申込書

「ISO 17100 翻訳サービスに関する国際規格」英語原文と日本語訳が併記された対訳版冊子

期間限定 セミナー参加者特典！

特別割引の申込締切：2015 年 6 月 15 日

<セミナーに参加される方>
■5 月 19 日(火)に開催の第 1 回 JTF 翻訳セミナーにご参加の方――定価の 15% 引き
(JTF 会員・非会員を問いません)

<セミナーに参加されない方>
■JTF 法人および個人会員――定価の 10% 引き
■非会員――定価にてご提供

定価(税込) 25,920 円 [送料無料]

翻訳の国際規格とは・・・

17100 Translation Services – Requirements for translation services

品質に関する規格といえば ISO9001 が有名ですが、翻訳業界には馴染みにくいとの理由から、国際標準化機関(ISO)では欧州規格 EN15038 をベースに 2012 年から翻訳サービスに特化した国際規格を策定してきました。そして、ついに 2015 年 5 月に発行されます。今後、海外では急速にこの規格が普及するものと予想されます。また、日本でも認証機関が設置されるなど大きな動きが出てきます。規格の内容把握および認証取得にご興味のある方は対訳版の購入とセミナー参加を是非ご検討ください。なお、第 1 回 JTF 翻訳セミナーへのご参加は、別途 JTF 公式サイトよりお申し込みください。

予約のお申込みは E メールで ▶▶▶ info@jtf.jp

下記の必要事項を記載の上、メールにてお申込みください。

- □お名前・フリガナ
- □法人名・部署名・役職名
- □会員区分 (法人会員・個人会員・非会員)
- □第 1 回 翻訳セミナー参加の有無
- □ご住所(郵便番号も記載のこと)
- □電話番号
- □E メール
- □お申込み部数

本件に関するお問い合わせ先：一般社団法人日本翻訳連盟(JTF) 事務局
〒104-0031 東京都中央区京橋3-9-2 宝国ビル 7 F
TEL: 03-6228-6607 FAX:03-6228-6604 E-mail: info@jtf.jp
ホームページ: http://www.jtf.jp

一般社団法人 日本翻訳連盟
Japan Translation Federation

JTF JOURNAL #277 May/Jun 2015
頒布価格 540 円(税込)
一般社団法人 日本翻訳連盟 機関誌
日本翻訳ジャーナル
2015 年 5 月 8 日発行